

国語科

教科名	国語科	科目名	古典
科目の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。		
履修学年	2年	類型	文系
単位数	4単位	履修形態	必修
教科書	改訂版古典B 古文編・漢文編 (数研出版)	副教材等	新版五訂完全マスター古典文法(第一学習社)・漢文必修四訂版(桐原書店) 古文単語330三訂版(いづな書店)・新版五訂新訂総合国語便覧(第一学習社)

①学習の目標

- (1) 文章や作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を読みとり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。
- (2) 文章や作品の表現上の特色を理解し優れた表現に親しむ。
- (3) 古典を読んで、日本文化の特質や日本文化と中国文化の関係について考える。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。
- (2) 文章や作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。
- (3) まとまった文章理解につとめ、文章に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を表現に即して読み、味わう。
- (4) 古典常識にも理解を深め、文章の構成を確かめたり、表現の特色をとらえたりする。
- (5) 作品の成立や評価についても探求し、日本文化の特質や、日本文化と中国文化の関係について考える。
- (6) 自ら読み取った思想や感情などについて、感じ、考えたことを文章にまとめ、発表する。

③学習に当たっての留意点

- (1) 常に主体的に学習に取り組むことを心がけ、古文では①音読、②文法的説明、③口語訳を、漢文では①音読、②書き下し文、③口語訳の予習を怠らないこと。(不明点を明確にする。)
- (2) 様々な表現技巧、語句、語彙について辞書や便覧などで調べ、読解に役立てるとともに、文章成立の歴史的背景への理解を深めること。
- (3) 授業では、予習時の不明点を解明して文章の内容を理解し、古文・漢文の語彙・文法事項の習熟に力を入れること。
- (4) 文法事項の学習に当たっては補助教材を活用し、計画的・体系的な知識の習得に努めること。
- (5) 小テスト等にも意欲的に臨み、課題等は期限を守って確実に提出すること。

④評価の観点

- (1) 「関心・意欲・態度」【関】
自らの国語力の向上を図るため、予習・復習をしっかりと行い、授業に関しても、その内容を積極的に理解し、自らを高めようとする姿勢が見受けられることを基本とする。様々な課題に関しても、取り組みが充分であり、自主的に質問をしたりするなど、理解しようとする態度も評価する。さらに、教材や作者に関して主体的に調べたり、発展的に学習を進めたりすることができることが望ましい。
- (2) 「話すこと・聞くこと」【話】
「話すこと」に関しては、目的や場に応じて、自分の意見を述べることを基本とする。さらに、様々な問題について自分の考えをまとめ、構成を考え、筋道立てて相手に分かりやすく話すことができていくことが望ましい。また、「聞くこと」に関しては、まとまった長さの説明を聞いて、内容を正確に理解できることを基本とする。さらに、その内容に共感したり、問題点を指摘したりすることができることが望ましい。
- (3) 「書くこと」【書】
誤字・脱字や、主述や文脈の乱れがなく、相手や目的に応じて言葉や文体を使い分けて書くことができていくことを基本とする。さらに、論理的な構成を工夫したり、効果的な表現を交えて書くことができていくことが望ましい。
- (4) 「読むこと」【読】
表現に留意して、様々な文章の内容を読み取り、ものの見方・感じ方・考え方を広げ、描かれた人物・情景・心情などを味わっていくことができていくことを基本とする。さらに、難解な文章でも文脈に即して的確に読み取り、自らの考えを深めていくことができていくことが望ましい。
- (5) 「知識・理解」【知】
古今の様々な文章の読解を通して、語彙・文法・表現・文学史等を理解し、今後の文章読解・鑑賞・表現に役立てられる知識として蓄積することを目指す。

⑤評価の方法

「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「知識・理解」の5つの観点で、以下の学習の状況を総合的に評価する。

- (1) 学習活動に対する取組姿勢
- (2) 提出された課題の内容
- (3) 定期考査、課題テスト及び小テストの結果

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	(古文) 説話	大江山(十訓抄) 兼盛と忠見(沙石集)	展開の分かりやすい説話を読み、古文に親しもうとしているか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 場面の状況と登場人物の行動・心情を把握できたか。【読】
5	(古文) 歌物語	初冠(伊勢物語) 通ひ路の関守(伊勢物語)	歌物語の特徴を理解し、その世界を味わおうとしているか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 場面の状況と登場人物の行動・心情を把握できたか。【読】
	(漢文) 故事	漱石枕流(世説新語) 画竜点睛(歴代名画記) 江南橋為江北枳(説苑)	展開の分かりやすい故事・逸話を読み、漢文に親しもうとしているか。【関】 語彙・語法・文法・句形などを理解できたか。【知】 古人のものの見方、考え方、感じ方を理解できたか。【読】
6			【前期中間考査】
	(古文) 随筆	すさまじきもの(枕草子) 大納言殿参り給ひて(枕草子)	随筆を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしているか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 作者の人間観・社会観を理解できたか。【読】
	(漢文) 漢詩	詩6編	音読を通して、表現の美しさを味わおうとしているか。【関】 語彙・語法・文法・句形などを理解できたか。【知】 作者の思考、心情、美意識について理解できたか。【読】
8	(古文) 日記文学	東路の道の果て(更級日記) 物語(更級日記)	作者の物語に対する初々しい憧れを味わおうとしているか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 文章の内容を構成や展開に即して的確にとらえられたか。【読】
9			【前期期末考査】
10	(古文) 物語	光源氏誕生(源氏物語) 小柴垣のもと(源氏物語)	『源氏物語』の概要について理解し、その世界を味わおうとしているか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 文章の内容を構成や展開に即して的確にとらえられたか。【読】
11	(漢文) 史伝	鴻門之会(史記) 四面楚歌(史記)	作者や作品について理解を深めようとしているか。【関】 語彙・語法・文法・句形などを理解できたか。【知】 登場人物の行動や心情を理解できたか。【読】
			【後期中間考査】
12	(古文) 随筆	ゆく河の流れ(方丈記) あだし野の露(徒然草)	随筆を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしているか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 文章の内容を構成や展開に即して的確にとらえられたか。【読】
	(古文) 歴史物語	三船の才(大鏡) 道長の剛胆(大鏡)	歴史物語の特徴を理解し、その世界を味わおうとしているか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 場面の状況と登場人物の行動・心情を把握できたか。【読】
	(漢文) 文章 思想	春夜宴桃李園序(李白) 曳尾於塗中(莊子) 侵官之害(韓非子)	思想家が用いた巧みな寓話の面白さを味わおうとしているか。【関】 語彙・語法・文法・句形などを理解できたか。【知】 比喩や具体例を用いた論述の仕方について理解できたか。【読】
	(古文) 軍記物語	忠度の都落ち(平家物語) 壇ノ浦(平家物語)	音読により、軍記物語に特徴的なリズム感を味わおうとしているか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 文章の内容を構成や展開に即して的確にとらえられたか。【読】
			【後期期末考査】
3	(古文) 和歌	やまと歌は(古今和歌集仮名序)	和歌の内容とともに、当時の社会状況にも目を向けようとしているか。【関】 和歌の修辞技法を理解できたか。【知】 各歌に詠まれた情景や作者の心情を理解できたか。【読】